症例2. 38歳, 男性. アルコール性肝硬変症で, ^{99m}Tc-Sn コロイドによる肝 scan で hepatic RE failure を呈した.

2症例とも, 肝臓の描出に ^{99m}Tc-PMT による肝・胆道 scan が有用であった.

9. ^{99m}Tc-phytate で肝イメージの得られなかった2症例

上野　滋　石田　治雄　林　奐
羽金　和彦　青木　則之　吉野　裕顕
(東京都立清瀬小児病院・外)
大森　一彦　大脇　生美　(同・放)
石井　勝己　堀池　重治　(北里大・放)

われわれは ^{99m}Tc-phytate を用いた肝シンチグラフィを延べ764例に行ったが, 肝イメージの得られなかった2例を経験した.

症例1は5か月男児で先天性代謝異常症が疑われた例である. 著明な肝腫と肝不全状態を呈し, 肝シンチグラムでは脾と骨髄に高度の集積を認めたが肝イメージは得られなかった. 組織学的には, 肝 Kupffer 細胞は腫大し, その細胞質は脂肪様の顆粒によって占められ, 貪食能が飽和に達した所見を示していた.

症例2は9歳女児で若年性関節リウマチの症例である. Cephametazole 等の抗菌剤, Aspirin の投与の既往があり, 検査所見で血管内凝固亢進を示唆する所見を認めた. 肝シンチグラムでは肝イメージは得られず, 肺に高度の集積を認めた. 同時に行った ^{99m}Tc-PMT による肝胆道シンチグラムは正常であり, 薬剤投与を中止し, 検査所見が改善するとともに肝シンチグラムも正常化した.

10. ^{67}Ga シンチグラフィにて原発巣を指摘しえた左鎖骨下リンパ節および肝転移を伴う胆のう癌の一例

増田　英明　三本　重治　安田　三弥
(横浜市立市民病院・内)

^{67}Ga-citrate は腫瘍親和性物質として広く臨床的に用いられているが, 胆のう癌への集積は稀である. ^{67}Ga シンチグラフィにて原発巣を指摘しえた左鎖骨下リンパ節, 肝転移を伴う胆のう癌の一症例を経験したので報告する. 症例は73歳男性, 主訴は左鎖骨下リンパ節腫脹. リンパ節生検にて腺癌細胞が認められ, 原発巣検索の一環として ^{67}Ga シンチグラフィを行ったところ, 左鎖骨下リンパ節の異常集積とともに胆のう部および肝内に2か所異常集積が認められ, 胆のう癌が疑われ, 腹部 CT 検査にて ^{67}Ga シンチグラムと同様所見が得られた. 剖検にて, 胆のうの未分化腺癌および2か所の肝転移, 左鎖骨下リンパ節転移の組織診断が得られ, ^{67}Ga シンチグラフィは病態をほぼ正確に診断しえた. なお, この症例は高 Ca 血症を合併しており, 剖検所見より原発巣が異所性 PTH 産生腫瘍であることが考えられ, ^{67}Ga-citrate の集積機序に関しての相関についても興味深い一例であった.

11. 悪性腫瘍での NMR-CT
——脳腫瘍以外での臨床経験——

油井　信春　伊藤　一郎　木下富士美
小圷　正木　(千葉県がんセ・核医)
嶋田　文之　(同・頭頸)
石田　逸郎　(同・呼吸器)
梅田　透　(同・整外)
福田　信男　池平　博夫　館野　之男
(放医研・臨)

1983年6月より放医研に設置された NMR 装置 Mark-J (0.1 T の常伝導型) で脳腫瘍を除外した悪性腫瘍の臨床像を得てその診断的価値の検討を行った. 42例の患者でほぼ全例に何らかの有用な情報を得たが, 特に頭蓋底部の腫瘍の診断は骨による artifact が出ないため XCT よりもすぐれている場合があった. また骨の腫瘍に対しても存在診断, 病巣の伸展範囲のいずれの面でもX線写真では得られない有用な情報をもたらした. 肺癌でも腫瘍内部の不均一な構造を反映した像が得られてX線や核医学とは異なる有用性が示唆された.

12. 大腿骨頭壊死のシンチグラフィについて

山岸　嘉彦　渡部　英之　疋田　史典
高岩　成光　篠原　義智　今村　純
(日医大学附属第二病院・放)
渡辺　誠　(同・整外)

特発性大腿骨頭壊死11例につき, 骨シンチグラフィーを行った. シンチグラム上阻血によると思われる壊死部の欠損像と, 骨代謝活性の亢進によると思われる周辺部集積増加がみられることが多く, X線写真より早期に認

Presented by Medical*Online